

2019年3月13日

見守り支援システムの活用により、 介護スタッフの業務負担軽減と介護品質の向上を実現

SOMPOケア株式会社（本社：東京都品川区／代表取締役社長 遠藤 健、以下 当社）は、今後の介護人材の不足に備え、確かなエビデンス、ICT・デジタル技術の活用による、介護スタッフの業務負担軽減と介護品質の向上を進めています。その取組みの一環として、当社が運営する介護付きホーム「SOMPOケア ラヴィーレ弥生台（神奈川県横浜市）」において、2018年10月より「見守り支援システム」*をトライアル導入し、一定の効果が検証されましたのでお知らせします。

* パラマウントベッド社製の「眠りSCAN」を導入し、見守り支援システムとして活用。

眠りSCANは、マットレスの下に設置することで内蔵したセンサーにより、体動（寝返り、呼吸、心拍など）を測定し、睡眠状態を把握する機器です。詳しくは、<https://www.paramount.co.jp/learn/reductionworkburden/nemuriscan>

1. 背景と目的

当社では、超高齢社会の日本が抱える介護人材の需給ギャップ解消を目指し、「人間」と「テクノロジー」の共生による新しい介護のあり方を創造します。この取組みの一環として、当社が運営する介護付きホーム「SOMPOケア ラヴィーレ弥生台」において、介護スタッフの業務負担軽減と介護品質の向上を実現しました。

2. 概要と導入効果、デジタル技術の活用

当社は、見守り支援システムの導入により、介護スタッフが実施する見守りのための巡回方法を変更し、業務改善を行うことで、1ホームあたり、夜間における介護スタッフ人員体制1名の削減（3→2名）、業務負担の軽減（移動距離40%削減）を実現しました。

従来、夜間の各居室への巡回では、ご利用者のプライバシーの問題と睡眠を妨げる可能性がありましたが、見守り支援システムのパソコンやスマートフォンの画面を確認することで、各居室を訪室せずにご利用者の「睡眠状態」「心拍数」「呼吸数」などの状態を把握できるようになりました。

当初、巡回方法の変更だけでは、起床、就寝のピーク時間の人員を確保する必要があり、夜間の介護スタッフの人員体制を変更することはできませんでした。夜間・日中の介護スタッフのすべての業務を見直し、ご利用者への援助のタイミング、サービス内容、対応スタッフなどケアプランに沿って援助内容を見直すことにより、ピーク時の人員は減らさず、1日トータルの人員を削減することができました。従来の業務をICT・デジタル技術に合わせて変えたことで、大きな効果を生み出すことができました（夜

勤スタッフ1名削減、夜間の移動距離40%削減)。

さらに、夜間業務を安定して行うため、ご利用者の睡眠の質向上にも取り組みました。睡眠時以外にも、心拍数や呼吸数を把握することで、ご利用者の状態変化を早期に発見し、迅速に医療連携することも可能になると考えています。

3. 今後について

2019年度以降、当社が運営する介護付きホームにおいて、見守り支援システムの導入をきっかけにした業務改善を予定しています。2019年度は約2億円の投資を行い、更なる業務負担の軽減と介護品質の向上を目指し、約3億円の効果を見込んでいます。そこで創出されるコストについては、介護スタッフの処遇改善につなげていくことを目指します。

今後も、当社はICT・デジタル技術の活用を通じて、介護を受ける側・介護をする側双方にとって、便利で快適に暮らせる社会の実現に貢献していきます。

以上